

西三河農林水産事務所

JA 西三河管内に点在する4か所の集出荷施設を1か所に集約し、販売力の強化や物流の効率化を図る計画が、令和7年度の農林水産省の「新基本計画実装・農業構造転換支援事業」に採択されました。本計画では、イチゴ・キュウリ・トマト・ミニトマト・ナス・イチジク・梨の7品目を対象とした新たな集出荷施設を整備し、持続可能な農業インフラの構築を目指します。

1 計画の概要

事業は3か年かけて進められ、令和10年3月までに約12,000㎡規模の集出荷施設を新設します。施設内には、イチゴのスマート選果システム(※)をはじめ、各種選果機・包装機・保冷庫などを導入します。今年度は、新施設の建設予定地に隣接する、これまで事務所であった施設を青果物のパッキングセンターとして改修する工事を実施しており、2月末の完成を予定しています。

JA 西三河では、これまでもスマート農業技術を積極的に導入しており、新施設においても出荷量予測や選果・包装・物流工程の効率化のため同技術を活用し、先進的で効率的な施設運営を図ります。

※ 画像処理技術を用い、選果レーンに流れてきたイチゴの大きさや形などを認識し、それに応じて最適な組合せとなるようAIが指示することにより、不慣れな人でも効率的なパック詰めが可能となります。また、システムで得られた果実データと圃場のデータ、天気予報から、産地の出荷量予測に活用することもできます。

2 期待される効果

施設の集約により、複数品目を一か所で集荷・選果・出荷できるようになり、雇用労働力の有効活用と物流の効率化が期待されます。

さらに、高効率で柔軟な選果・パッキングシステムの導入によって、高付加価値商品の開発や、消費者ニーズに応じた新商品の提案が可能となります。これにより、西尾市産青果物の魅力が一層高まり、契約取引の拡大などを通じて農家所得の向上が期待されます。

加えて、総合集出荷施設の周辺には、図に示すとおり、カントリーエレベーターと花き集出荷場、憩の農園（地産地消メニューが充実した飲食エリアと産直施設）が立地しており、地域の農業を発信する拠点としての役割を果たすことが見込まれます。



改修工事中の建物

手前が新集出荷施設の建設予定地

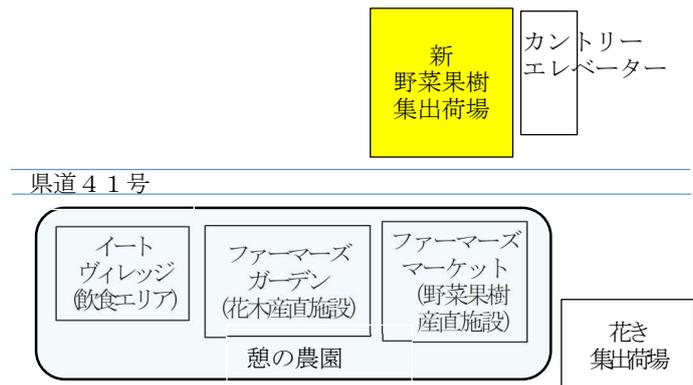


図 新集出荷場の周辺施設